

報告書抄録

ふ り が な	京都府遺跡調査報告集
書 名	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう
副 書 名	
巻 次	第173冊
シ リ ー ズ 名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第173冊
編 著 者 名	筒井崇史・高野陽子・関広尚世・福山博章・黒坪一樹・増田富士雄・桐井理揮・長友朋子・吉村慎太郎・中塚 武・李 貞・對馬あかね・佐野雅規・伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtadze・小林克也・能代修一・村上由美子・佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・西原和代・岡田麻衣子・高橋 悠・鶴来航介・柳原麻子・浦 蓉子・バンダリスダルシャン
編 集 機 関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所 在 地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発 行 年 月 日	西暦2018年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
しもみずしいせき	きょうとふじょうようしみずしいしょうぐん・くらがい・みやのばんば、てらだかなお・いまばし、					20120521 ～ 20130308 20130422 ～ 20140227 20140422 ～ 20150227	1,770 2,050 1,600	道路建設
下水主遺跡第1・4・6次	京都府城陽市水主大將軍・倉貝・宮馬場、寺田金尾・今橋	26207	88	34° 50' 51"	135° 45' 43"			

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下水主遺跡第1・4・6次	集落跡 生産遺跡	弥生～中世	島畑・土坑・柱穴・井戸・溝(土器溜まり・護岸遺構)	弥生土器・土師器・須恵器・石器・木製品・土製品	

所収遺跡名	要 約
下水主遺跡第1・4・6次	中世の島畑の下層で、古墳時代後期～飛鳥時代の柱穴群や井戸、弥生時代の土坑・溝などを検出した。弥生時代の溝は、後期から古墳時代前期までの遺物が各層から出土し、長期間にわたって使用されたことがわかった。溝の岸には杭で護岸されていたり、再掘削されていたりしており、人間の手が加えられていることが視われる。このような溝の規模は、幅10.5～13.7mを測ることや、埋土に木津川由来の砂層が認められることから、木津川に通じる水路と判断されるものである。東海系を主体とする外来の土器が多く出土することから、水運を利用した東海地域との関係性を示すものと考えられる。古墳時代前期には溝の埋積が進み、水路の機能はすでに失われたが、穿孔された土器や赤彩された土器や、舟形木製品・陽物形木製品などの祭祀具が含まれており、水辺の祭祀が執り行われたものと判断される。